



栄に会 ドキュメント The 舞台裏

第13回

「バックアップセンター・きょうと」のリアルな裏側をお見せします!

当病院の舞台裏を潜入レポートする本企画。今回も特集記事とタイアップして、「バックアップセンター・きょうと」のリアルな現場をご紹介します。



BUC最古参のひとり、看護師・永田さん

バックアップセンター・きょうと以下、BUCと表記)は筆者も、十数年前の立ち上げ時から現在に至るまで、週1日の出向スタッフとして微力ながらお手伝いさせていただいている。

内情についてもある程度は知っているつもりだけれど、なにぶん週1日の勤務なので、知らないヒミツがまだまだあるかもしれない。

お出迎えの永田さんと水槽

BUCのドアをノックすると、「どうぞどうぞ」と笑顔の手招きで出迎えてくださった永田さん。

そのままセンターに足を踏み入れると、まず目に飛び込んでくるのが、存在感のある立派な水槽だ。数年前に登場して以来、きれいに手入れされていて、中の住民もドジョウにエビ、カージナルテトラ、タニシと充実し続けている。



存在感のある水槽

機材一式、寄贈してくださったんですよ」

趣味で水槽をやっているかたが、使っていないものがあるというので、BUCに寄付してくださったのだ。

「その後の手入れというか、世話がタイヘンじゃないですか?」

「そうなんです。この水槽が入る前は野外でメダカを飼ってたことがあったんですけど、水温が不安定だったせいか何匹も亡くならせしてしまった過去があつて……」

「そのときはどなたが世話を?」

「当時は私が担当していました。今の水槽は、寄贈されたメンバーさんが世話役を買って出てくださいる形で始まったんです。それを生き物係のメンバーさん数名が引きついで、日々丁寧に世話しながら、現在にいたるまで順調に育ててくださっています」

水槽のメンテナンスに関してはスタッフよりもメンバーさんのほうが詳しいようで、果たしてこれがいいのか悪いのか(笑)。でも、スタッフが少々頼りないくらいの方が、メンバーさんの自立心や潜在能力を引き出せるのかもしれない。

「ところで、生き物係というのはどういうものですか?」

「生き物係は植物や魚の世話を担う係です。BUCでは他にも名札係や情報発信係など、復職トレーニングの「環」としてさまざまな係

活動を導入してるんです」

情報発信係は私が担当スタッフなので知ってます!

「この水槽は、メンバーさん同士が魚たちを眺めながら世間話をされたりと、つかず離れずの交流の場にもなっているんですよ」

悠々自適に泳ぐ魚たちが適度なワンクッションとなって、私たちを癒してくれている。こういう空間そのものが治療的に作用しているように感じられる。

もう汚くない! 本棚

BUCの中をさらに進むと、本棚スペースが場所を構えている。

結構たくさん蔵書がありますけど、どれもスタッフが選んでいるんですか?

「課題図書としてメンバーさんに読んでもらう本はこちらで選んでいます。それ以外はリクエストだったり寄付だったりします」

見れば、うつ病や復職に関する課題図書のほか、ダイエットや映画など幅広い書籍が並んでいる。

一冊一冊、透明なカバーを付けてらっしゃるんですね。

「当初はカバーを付けてなかったんですけど、次第に汚れが気になるようになってきて、このままでは大変なことになってしまった! との判断でカバーを付けることにしたんです」

重曹で本をパックしてみたり、黒ずんだ部分をヤスリで



カバーのおかげで清潔な本棚